

環日本海経済の相互依存

—国際連結計量経済モデル、I-O モデル、CGE モデルによる一つの評価—

尹 清 洙 (京都大学大学院)

本報告は2000年11月の環日本海学会第6回研究大会で行った環日本海計量経済モデルの報告に続く第2報である。筆者は環日本海経済に関して、国際連結計量経済モデル、I-O モデル、CGE モデルといった手法を用いて実証分析を行っているが、当日は今までの途中研究報告を行う。

1. 環日本海計量経済モデルと北東アジア計量経済モデル

去年の報告では「日本+韓国+ロシア+中国東北3省」を内生化した「環日本海（東海）計量経済モデル」を用いて、主に日韓自由貿易協定の効果分析をして来た。しかし、1999年秋、「ASEAN 十日中韓」首脳会談を前に中国がASEANが検討中の自由貿易協定を「日中韓」を含むものに拡大するようにとの提案を行ない、また、実際日韓両国にとっての中国という貿易パートナーの役割は急速に増大していることを考慮すれば、北東アジアにおける自由貿易協定の効果分析は「日韓」の枠組みだけではなく、「日中韓」の枠組みによるものも十分な検討をされる必要が出て来ている。そのため、今回は中国ブロックを東北3省のみとするのではなく、中国全体をカバーするものとし、かつロシアを除く当該3ヶ国のみを対象とした、「北東アジア計量経済モデル」を構築し、日韓及び日中韓自由貿易効果を分析した。そこで見られた特徴を当日具体的に説明する。モデルの全容に関してはHP (<http://i.econ.kyoto-u.ac.jp/pacific/yo>,

bunn.model/index.htm) の方程式リストを参照されたい。

2. 北東アジア I-O モデル

日本、韓国、中国のマクロ計量経済モデルを産業部門レベルに拡張したものである。まず、接続産業連関表を用い、産業構造予測を行った。しかし、中国に関しては、日韓と操作性よく比較分析を行うため、以下のような作業を行った。すなわち、まず日本貿易振興会アジア研究所によって公表されている、国際産業連関表から、1985、1990、1995年の中国7部門の名目産業連関表を整理した。それから、中国統計年鑑などの資料から得られた物価指数を用い、実質化を行い、中国7部門の1985—1990—1995接続産業連関表を作成した。それから、RAS方を用いて、産業構造予測を行った。次に、内生化されたI-Oモデルを利用し、自由貿易などの政策の産業部門への影響を計測した。

3. CGE モデル

I-Oモデル分析では、生産活動が固定係数の生産関数下で行われるという仮定が置かれている。「このようなI-Oモデルの固定係数の仮定を緩め、価格変化に対する経済主体の最適行動のメカニズムを取り入れたのがCGEモデルである。ここでは、自由貿易協定による輸出拡大が中国経済に及ぼす影響をCGEモデルを用いて計測した。その結果と特徴を当日詳しく説明する。

COMMENT

凌 星光 (福井県立大学)